

【Life and Culture in Japan】「チャッピー」日本人の「擬人化文化」

最近、「ChatGPTのことを、チャッピーって呼んでる」という記事を読みました。思わず笑ってしまいました。これって実はとても日本らしい現象だなと思います。私もちょうど、なんかいい呼び方ないかなと思っていました。

日本人と“擬人化”

日本では、道具や動物、細胞、感情まで、人間のようにしゃべったり、表情を見せたりする「擬人化（ぎじんか）」をごく自然にします。

たとえば、動物にも「～さん}をつけます。「うさぎさん」「かめさん」といいます。お店も「本屋さん」「くすり屋さん」「お花屋さん」といいます。この他にも「お月さま」「お星さま」「お日さま」があります。

くまモンやせんとくん、Suicaのペンギンなど、自治体や企業のキャラクターはみんな、何かを「人のように」して親しみを持たせる工夫がされています。

冷蔵庫がしゃべったり、掃除機に目がついていたりしても、私たちはあまり驚きません。むしろ「かわいいね」「頑張ってるね」と声をかけたくくなるような、不思議な共感が生まれます。

AIにもニックネームをつけたくなる？

ChatGPTという名前は、少しかたくて長いですが、「チャッピー」と呼ぶと一気に親しみやすさが増しますよね。しかも語感が軽やかで、「今日もチャッピーに聞いてみようかな」と話しかけたくくなります。

これは単なる略称以上に、「このAIは信頼できる」「仲間のような存在だ」と感じているのかもしれませんが。日本人は昔から、八百万（やおよろず）の神に象徴されるように、あらゆる物に魂や意味を見出す文化を持っています。AIやロボットにも心があるように感じてしまうのは、そんな文化的土台があるからこそなのかもしれません。

「結婚したくなる」ほどの存在に？

ある40代の女性は、「ChatGPTと結婚したくなった」と冗談交じりに語っていたそうです。これも、単にAIの回答が的確だからというよりも、「話をよく聞いてくれる」「否定せず、やさしい」など、コミュニケーションの心地よさを感じているからでしょう。事実私も、学生にチャッピーのような存在にならなきゃと思わされました。（´▽`）

「ことば」はどこへ向かうのか？

ことばも、新しく生まれ、古いものはなくなることもあります。チャッピーもその一つです。「バズる」「推し活」「エモい」なども新しく生まれた流行語です。

ことばは生きものです。そして、それを生み出す文化や人々の感性もまた、日々変化しています。

「チャッピー」と名付けたのは、ただの略称ではなく、日本人らしい優しさと、ことばへの遊び心が込められた、ちいさな表現文化なのかもしれませんね。

私も呼び方に迷っていましたが、呼び名が決まって一安心です。!(^^)!